# １.リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

令和７年度のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率を集計しました。

## 定　義

◇集計値は次の式で算出した値とする 。
（分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数／肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数）×100

◇リスクレベルが「中」以上の手術は、「肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断，治療，予防に関するガイドライン（2017 年改訂版）」（日本循環器学会等）に準じて抽出。

| 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数（分母） | 分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数（分子） | リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率 |
|---|---|---|
| １２２７ | １１０１ | ８９．７３％ |

## 解　説

肺血栓塞栓症とは、肺動脈に血液の塊である血栓が詰まる病気です。多くの場合は、大腿～膝の深部静脈に形成された血栓（深部静脈血栓症）が血液に乗じて肺まで運ばれることで発症します。手術や長期間の臥床を余儀なくされると下肢を動かすことが少なくなるため、発症するリスクが高まります。

予防法として、弾性ストッキングの着用、フットポンプ（間欠的空気圧迫）の装着などがあります。当院では全身麻酔の手術を行う患者さんを中心に、年齢・強い危険因子（癌、血栓塞栓症の既往等）を考慮し、適切な予防管理を行っています。